

13) 調査対象種以外の特筆すべき種(鳥類)

今回の調査では、調査対象種以外に特筆すべき鳥類として、ホオジロガモ、ウミアイサ、オオミズナギドリ、タゲリ、ケリ、メダイチドリ、ソリハシシギ、ウミネコ、オオアジサシ、ミサゴ、ハイタカ、アリスイ、ビンズイ、アオジの 14 種を確認した。

【ホオジロガモ】

ホオジロガモの生態情報等を表 3.2-17 に、確認位置を図 3.2-13 に示す。

表 3.2-17 特筆すべき種の生態および確認状況(ホオジロガモ)

ホオジロガモ	カモ科	種の保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 (越冬)
生態	日本には冬鳥として北海道、本州、四国、九州で見られ、本州北部と北海道に多い。越冬地では大きい河川、湖沼、池、河口、砂浜海岸で見られるが、とくに砂浜海岸に多い。水面や水底や水中を泳いで小魚などを捕らえる。軟体動物、甲殻類、昆虫の幼虫、小魚などのほか、水草の種子・根・茎・葉・藻なども食べる。越冬地では日中は単独やつがい、あるいは小群で分散するが、夜間は集合して休む。								
確認状況	平成 26 年 1 月 10 日に海上で採餌している延べ 8 羽を確認した。								

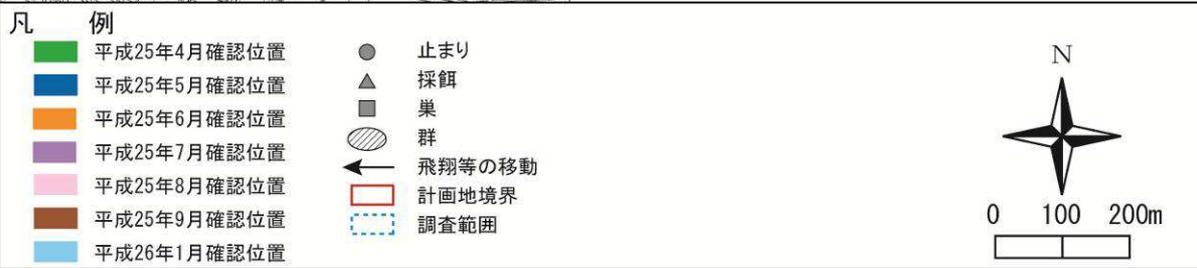
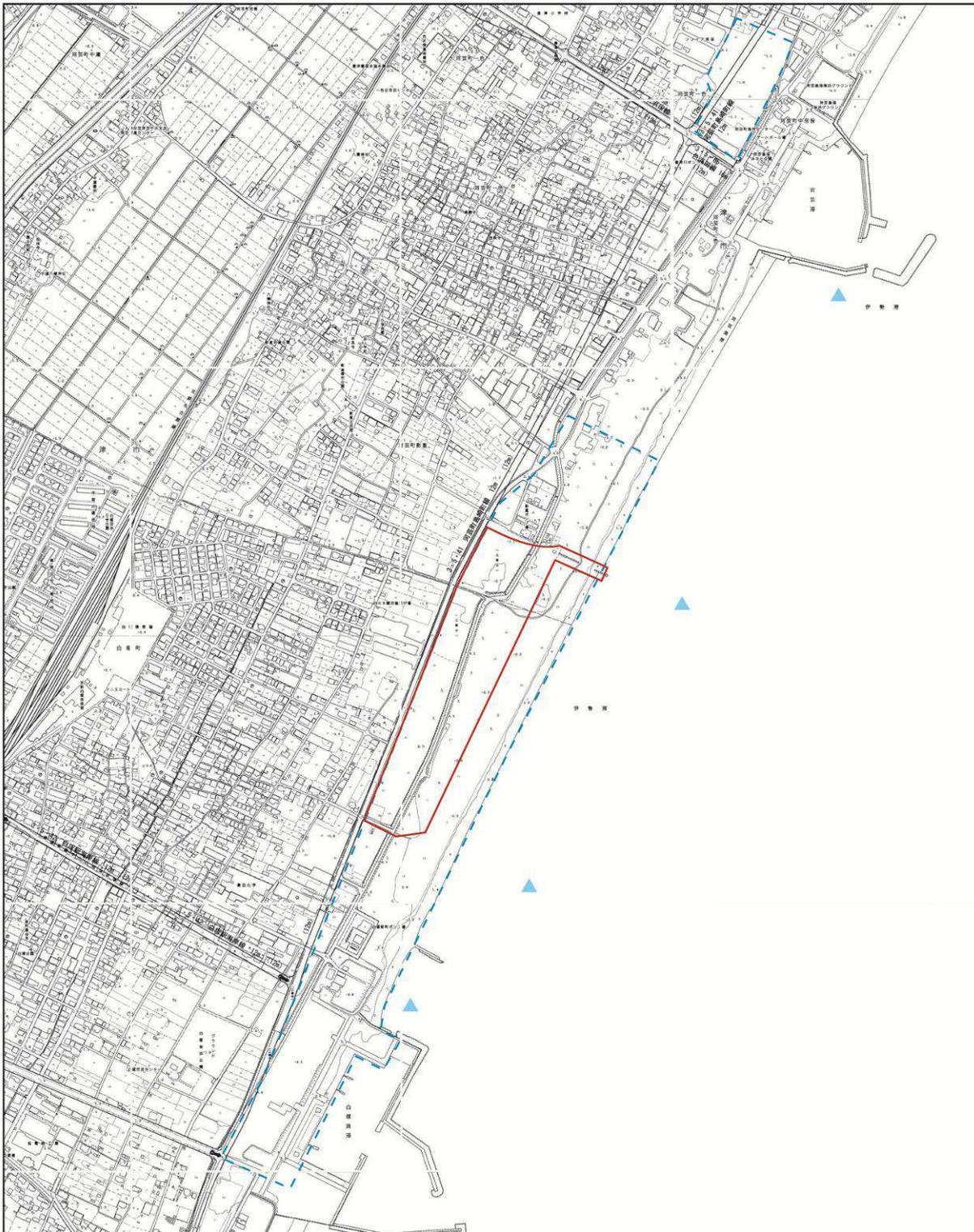


図 3.2-13 ホオジロガモの確認位置図

【ウミアイサ】

ウミアイサの生態情報等を表 3. 2-18に、確認位置を図 3. 2-14に示す。

表 3. 2-18 特筆すべき種の生態および確認状況（ウミアイサ）

ウミアイサ	カモ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 (越冬)
生態	日本には冬鳥としてほぼ全土に現れるが南西諸島には少ない。海岸の沿岸に現れ、比較的浅い岩礁にいることが多いが、砂浜に来ることもある。河口部や干潟の水路、潟湖などに入ることもあるが淡水湖に来ることはまれである。潜水し、水中を脚と翼を使って泳ぐ。主として魚食で、体長 8~10 c m程度の獲物をくわえとり、水面に浮かんで呑み込む。朝夕に活発に活動し、水中に 3~7mくらい潜水し、15~60秒くらい潜る。								
確認 状況	平成 26 年 1 月 10 日に海上で採餌している延べ 4 羽を確認した。								
									
ウミアイサ 平成 26 年 1 月 16 日撮影									

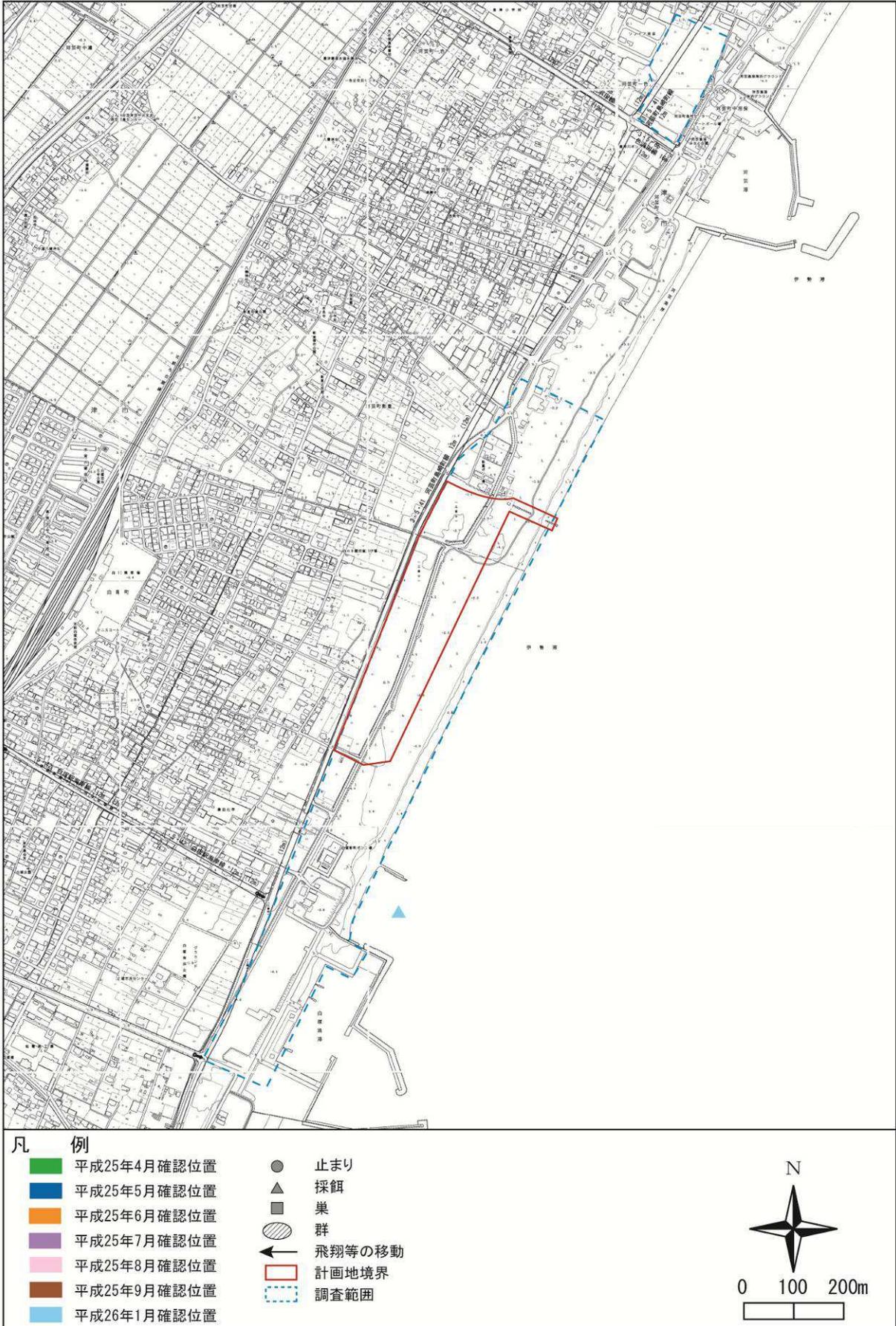


図 3.2-14 ウミアイサの確認位置図

【オオミズナギドリ】

オオミズナギドリの生態情報等を表 3.2-19に、確認位置を図 3.2-15に示す。

表 3.2-19 特筆すべき種の生態および確認状況（オオミズナギドリ）

オオミズナギドリ ミズナギドリ科		種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R4 注目 (繁殖)
生態	<p>岩手県三貫島、京都府冠島、伊豆諸島など日本近海の島嶼で繁殖。太平洋西部に分布。林内の土中の巣穴で営巣する。3～11月から1卵を雌雄交代で64日前後抱卵し、84日ほど給餌をする。親鳥は巣立ち前に島を去って越冬のため南下する。ヒナはその後独力で巣立つ。海表面からイカ、イワシなどの魚を捕食する。 【出典：第6回自然環境保全基礎調査鳥類繁殖分布調査（環境省）】</p>								
確認 状況	<p>平成25年9月17日に海上を飛翔する3羽を確認した。</p>								
									
<p>オオミズナギドリ 平成25年9月17日撮影</p>									

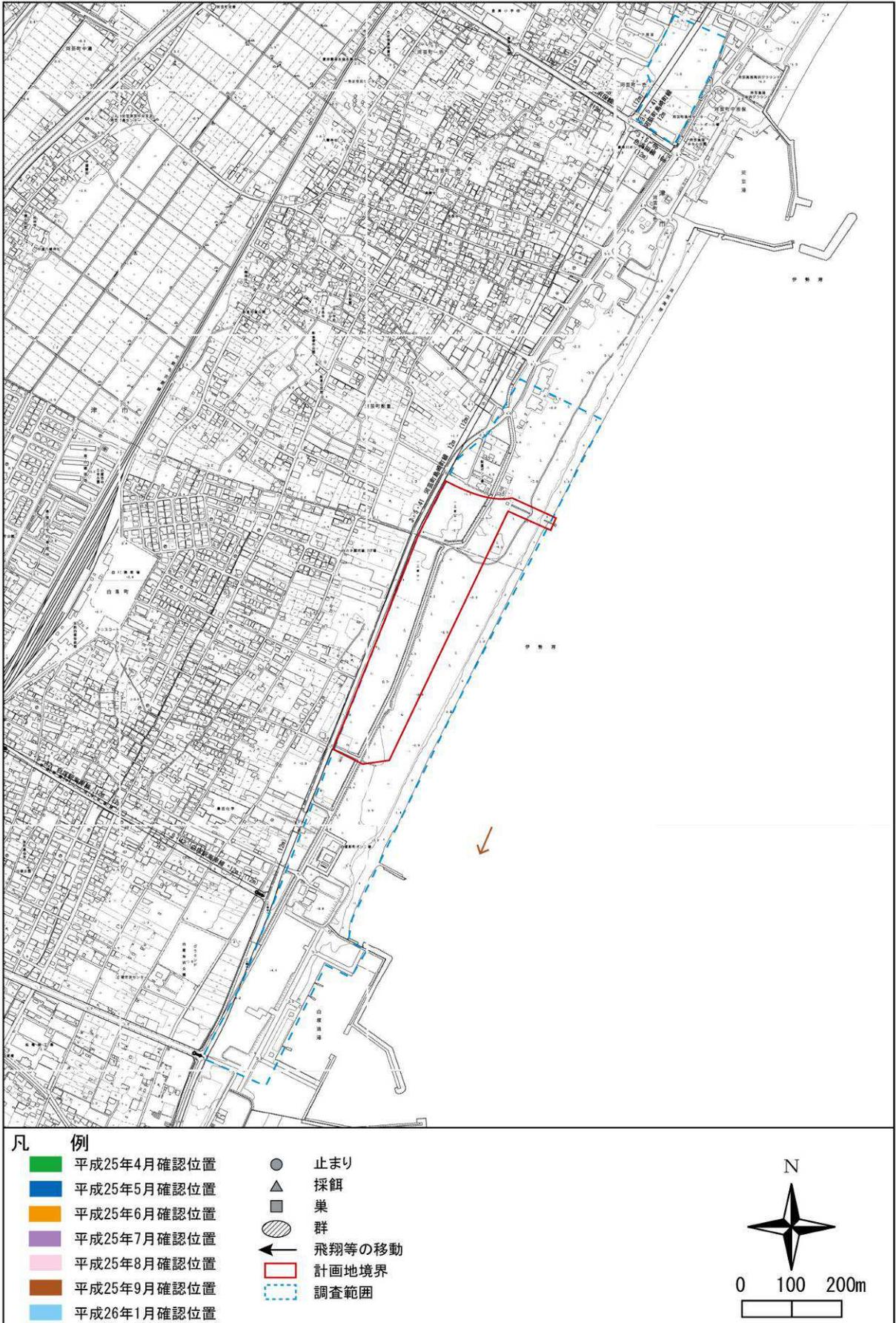


図 3.2-15 オオミズナギドリの確認位置

【タゲリ】

タゲリの生態情報等を表 3.2-20に、確認位置を図 3.2-16に示す。

表 3.2-20 特筆すべき種の生態および確認状況（タゲリ）

タゲリ	チドリ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	VU	近畿 RDB	R3 (越冬)
生態	<p>おもに本州中部以南で冬鳥。北陸や関東北部などで繁殖記録がある。ユーラシア中・北部に分布。</p> <p>水田を含む浅い湿地、川原などに生息し、地上に営巣する。4卵をおもに雌が26日前後抱卵する。ふ化後ヒナは半日くらいで巣を離れ、約1か月間は家族群で過ごす。耕起した田畑などでミミズや昆虫、草本の種子などを食べる。</p> <p>【出典：第6回自然環境保全基礎調査鳥類繁殖分布調査（環境省）】</p>								
確認 状況	<p>平成26年1月10日に草地で採餌する5羽を確認した。</p>								

【ケリ】

ケリの生態情報等を表 3.2-21に、確認位置を図 3.2-17に示す。

表 3.2-21 特筆すべき種の生態および確認状況（ケリ）

ケリ	チドリ科	種の 保存法	-	環境省 RL	DD	三重県 RDB	-	近畿 RDB	-
生態	<p>極東地域に固有の種である。日本・中国東北部・長江下流域に分布する。国内では、留鳥。本州で繁殖するが、営巣地は局地的である。積雪地で繁殖する個体は、冬期は南に渡り越冬する。</p> <p>大型のチドリの仲間。水田地帯や河川敷・埋立地で地上営巣する。繁殖期、警戒心が非常に強く、巣に近づく外敵に対して、つがい共同で激しく執拗に威嚇する。</p> <p>【出典：千葉県保護上重要な野生生物－千葉県レッドデータブック－動物編（2011年改訂版）（千葉県）】</p>								
確認 状況	<p>平成 26 年 1 月 10 日に裸地・草地等で採餌する延べ 3 羽を確認した。</p>								
									
<p>ケリ</p> <p>平成 26 年 1 月 10 日撮影</p>									

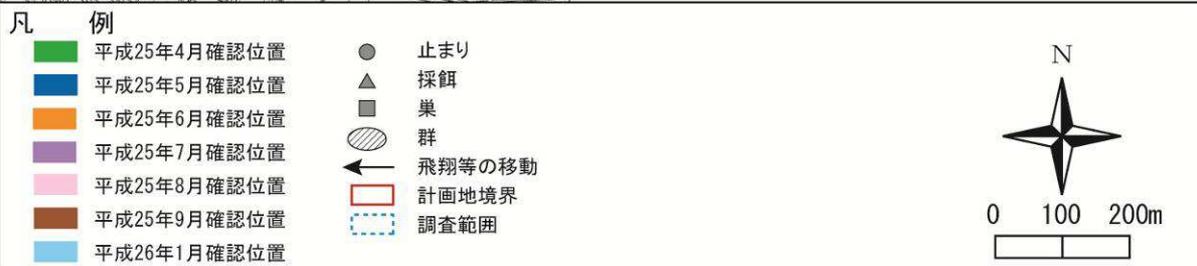
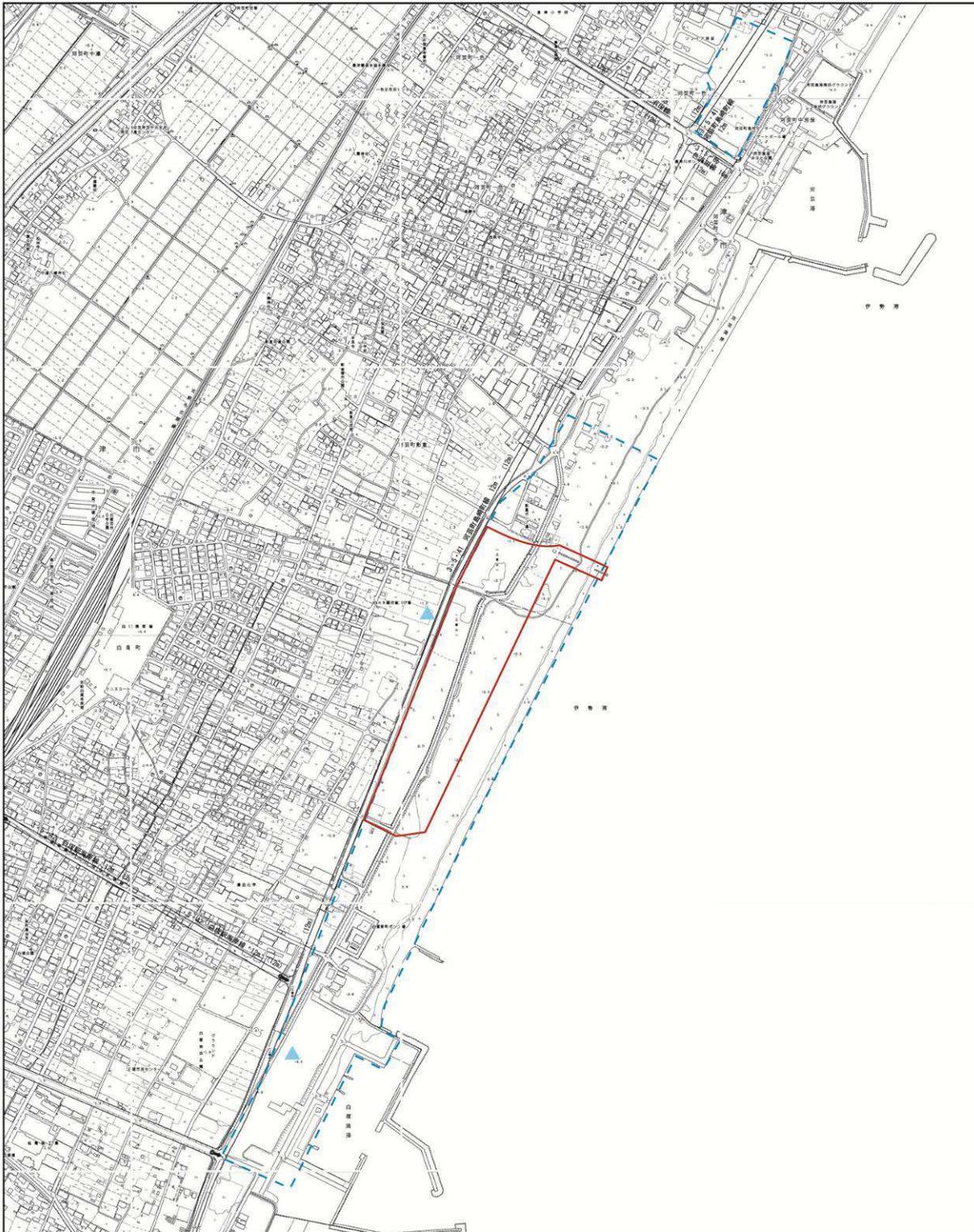


図 3.2-17 ケリの確認位置図

【メダイチドリ】

メダイチドリの生態情報等を表 3. 2-22に、確認位置を図 3. 2-18に示す。

表 3. 2-22 特筆すべき種の生態および確認状況（メダイチドリ）

メダイチドリ	チドリ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 (通過)
生態	ユーラシア大陸の中部から東部にかけての地域で不連続に繁殖し、アフリカ東岸から南アジア、東南アジア、オーストラリアの海岸沿いの地域等で越冬する。国内では、主に渡りの時に通過する。昆虫、小甲殻類、貝類などを採食する。 【出典：近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発（京都大学学術出版会、山岸哲監修、江崎保男・和田岳編著,2002年）】								
確認 状況	平成 25 年 8 月 12 日に海岸の水際で採餌している 4 羽、9 月 17 日に砂浜で休息している 3 羽を確認した。								
									
<p>メダイチドリ 平成 25 年 9 月 17 日撮影</p>									

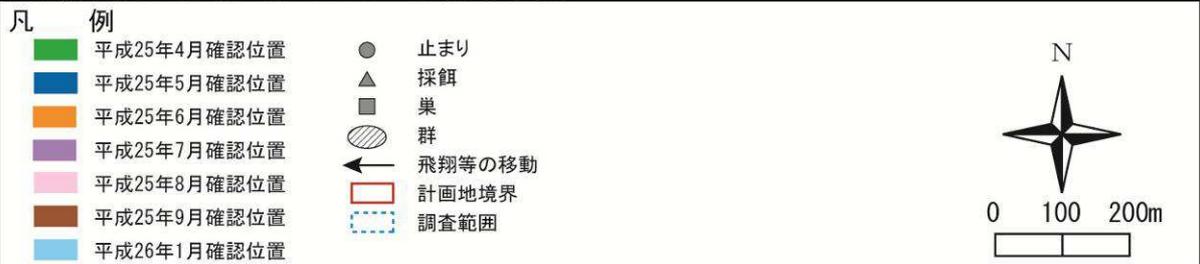
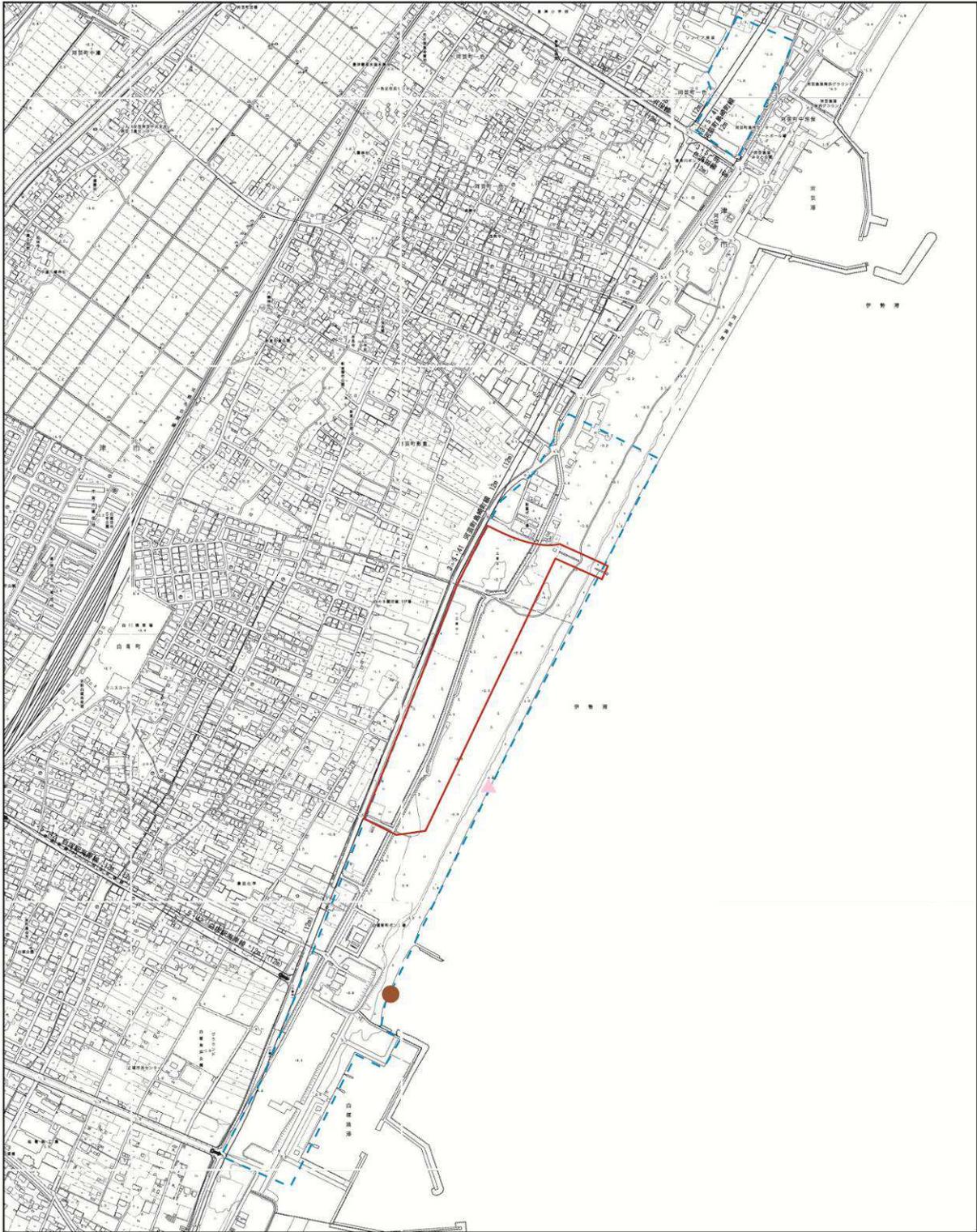


図 3.2-18 メダイチドリの確認位置

【ソリハシシギ】

ソリハシシギの生態情報等を表 3. 2-23に、確認位置を図 3. 2-19に示す。

表 3. 2-23 特筆すべき種の生態および確認状況（ソリハシシギ）

ソリハシシギ	シギ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 (通過)
生態	スカンジナビア半島からシベリア東部までのユーラシア大陸の高緯度地域で繁殖し、地中海沿岸、アフリカ、南アジアから東南アジア、オーストラリア周辺の海岸沿いの地域などで越冬する。国内では主に渡りの時に通過するが、越冬することもある。昆虫、小甲殻類などを採食する。 【出典：近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発（京都大学学術出版会、山岸哲監修、江崎保男・和田岳編著,2002年）】								
確認 状況	平成 25 年 8 月 12 日に海岸の水際で採餌する 2 羽を確認した。								

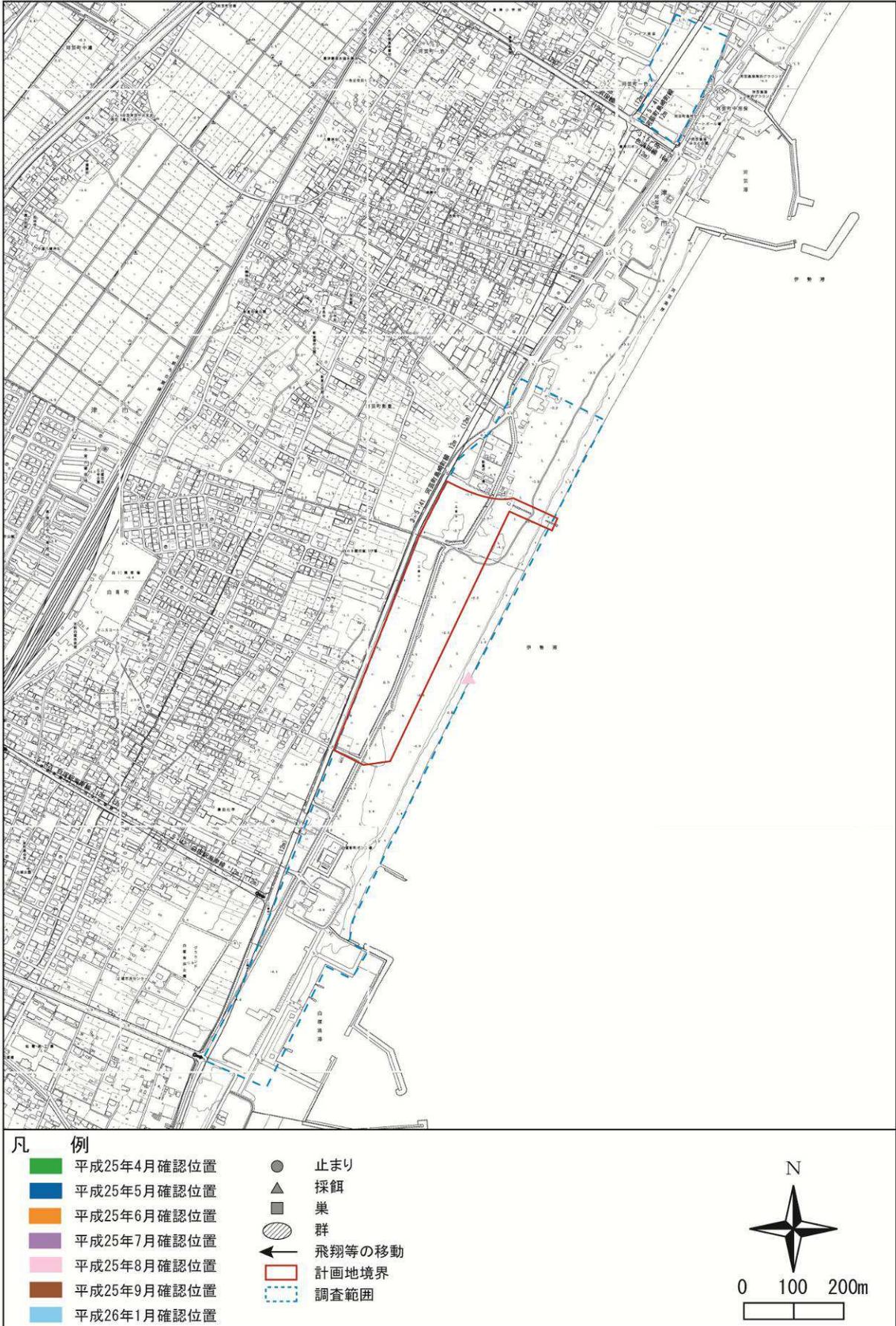


図 3.2-19 ソリハシギの確認位置

【ウミネコ】

ウミネコの生態情報等を表 3. 2-24に、確認位置を図 3. 2-20に示す。

表 3. 2-24 特筆すべき種の生態および確認状況（ウミネコ）

ウミネコ	カモメ科	種の保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R4 注目 (繁殖)
生態	日本では北海道・本州・九州の沿岸各地で局地的に繁殖し、冬はほぼ全土の海域に広がる。沿岸海域に多い。繁殖期には、断崖に囲まれた岩礁や草地にコロニーを形成する。各地の海岸線に沿って飛び、岩礁や漁港、港の防波堤、河口の中洲、砂浜等により下りてズラリと並んで休息している。海上や海岸で生きた魚を捕らえるほか、魚や甲殻類の死体も漁る。繁殖期は4～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は地上に枯れ草を集めて浅い皿形につくる。1巣卵数は1～4個で、2～3個が多い。								
確認状況	平成25年4月25日に砂浜で休息する1羽、6月25日に海上上空を飛翔する1羽を、7月25日に海上を飛翔する延べ2羽、人工物上で休息する10羽を、8月12日に海上を飛翔する1羽を、9月17日に建物の屋根で休息する7羽、海上で休息する延べ7羽をそれぞれ確認した。								
									
ウミネコ 平成 25 年 9 月 17 日撮影									

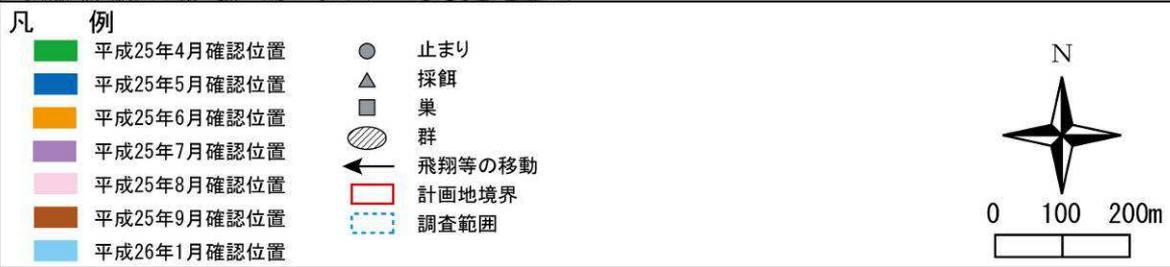
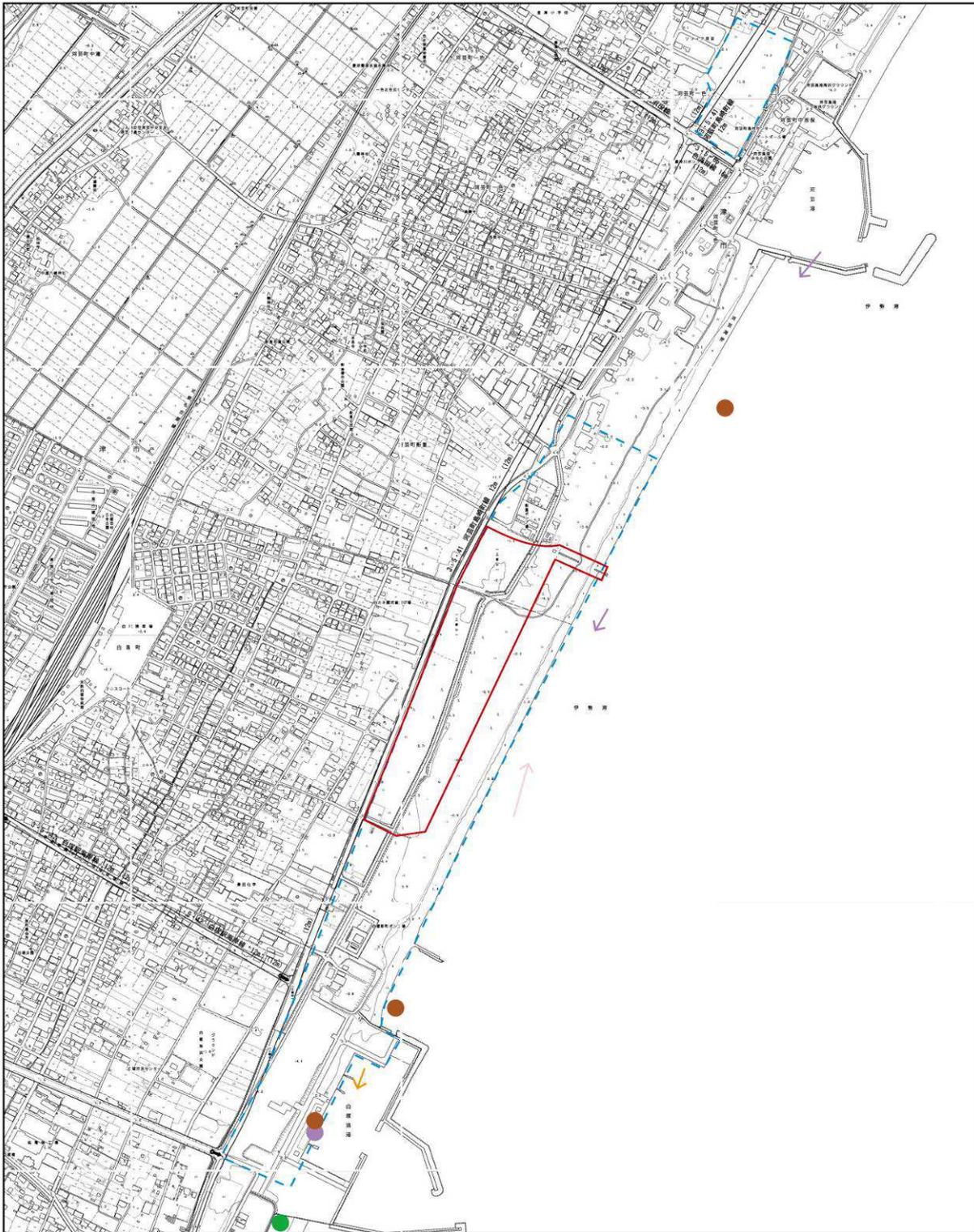


図 3.2-20 ウミネコの確認位置図

【オオアジサシ】

オオアジサシの生態情報等を表 3. 2-25に、確認位置を図 3. 2-21に示す。

表 3. 2-25 特筆すべき種の生態および確認状況（オオアジサシ）

オオアジサシ	カモメ科	種の 保存法	-	環境省 RL	VU	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R2 (通過)
生態	インド洋から太平洋南西部に生息し、周辺の島嶼などで繁殖する。国内では、尖閣諸島、小笠原諸島で繁殖している。非繁殖期は主に南方の海域に生息する。魚類やイカを捕食する。 【出典：近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発（京都大学学術出版会、山岸哲監修、江崎保男・和田岳編著,2002年）】								
確認 状況	平成 25 年 9 月 17 日に海上で採餌する 3 羽を確認した。								

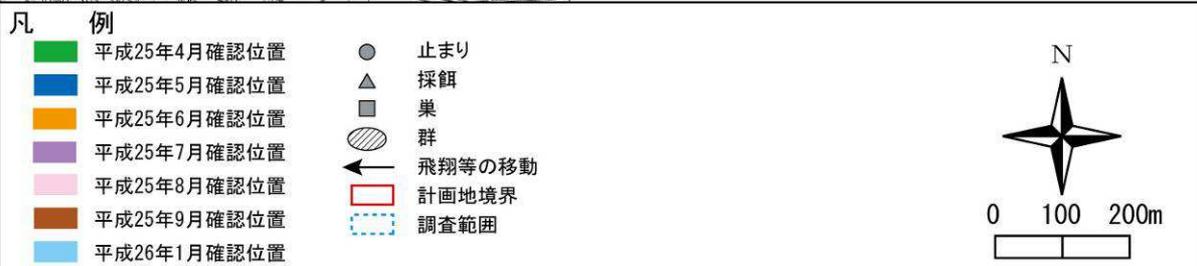
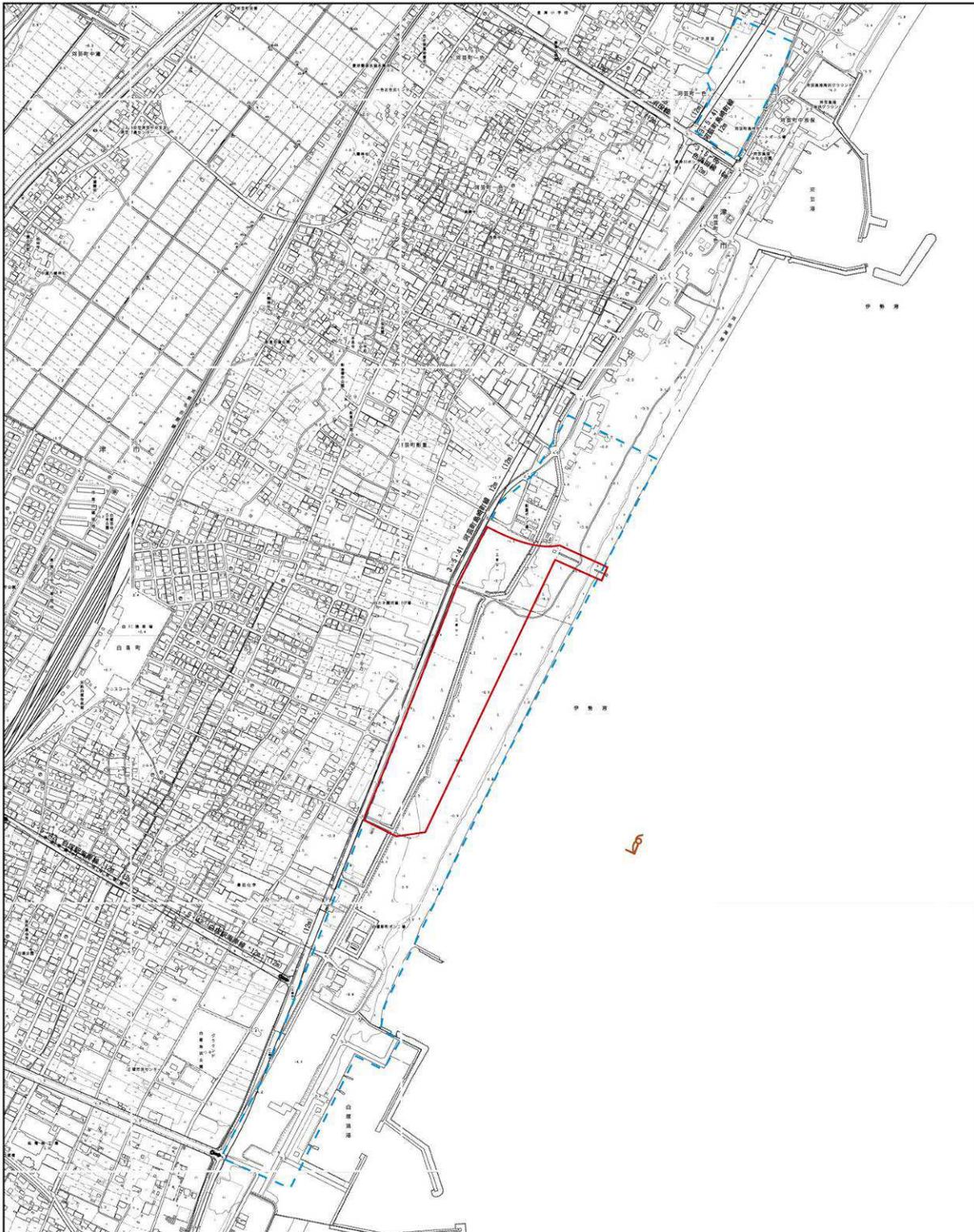


図 3.2-21 オオアジサシの確認位置図

【ミサゴ】

ミサゴの生態情報等を表 3. 2-26に、確認位置を図 3. 2-22に示す。

表 3. 2-26 特筆すべき種の生態および確認状況（ミサゴ）

ミサゴ	タカ科	種の 保存法	-	環境省 RL	NT	三重県 RDB	EN（繁殖） VU（越冬）	近畿 RDB	R2 （繁殖）
生態	日本では北海道から沖縄で少数が繁殖する留鳥で、魚を捕食して常食とする猛禽である。海岸、大きな川、湖などで採食し、人気のない海岸の岩の上や岩棚、水辺に近い大きな木の上に巣をつくる。ボラ、スズキ、トビウオ、イワシなどを食べる。								
確認 状況	平成 25 年 9 月 17 日に耕作地を飛翔する 1 羽を確認した。								
									
<p>ミサゴ</p> <p>平成 25 年 9 月 17 日撮影</p>									

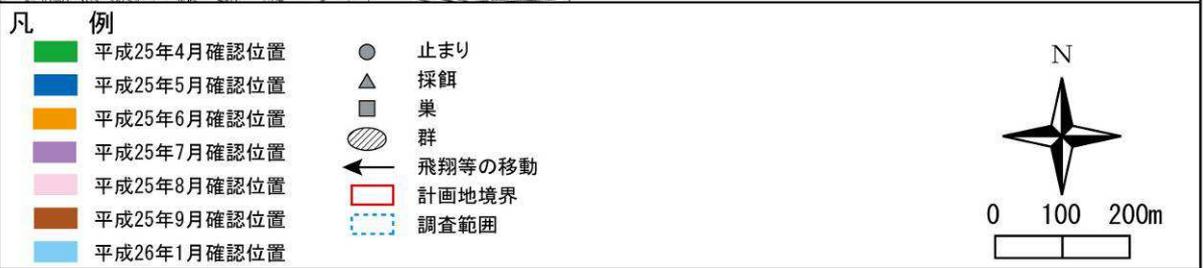
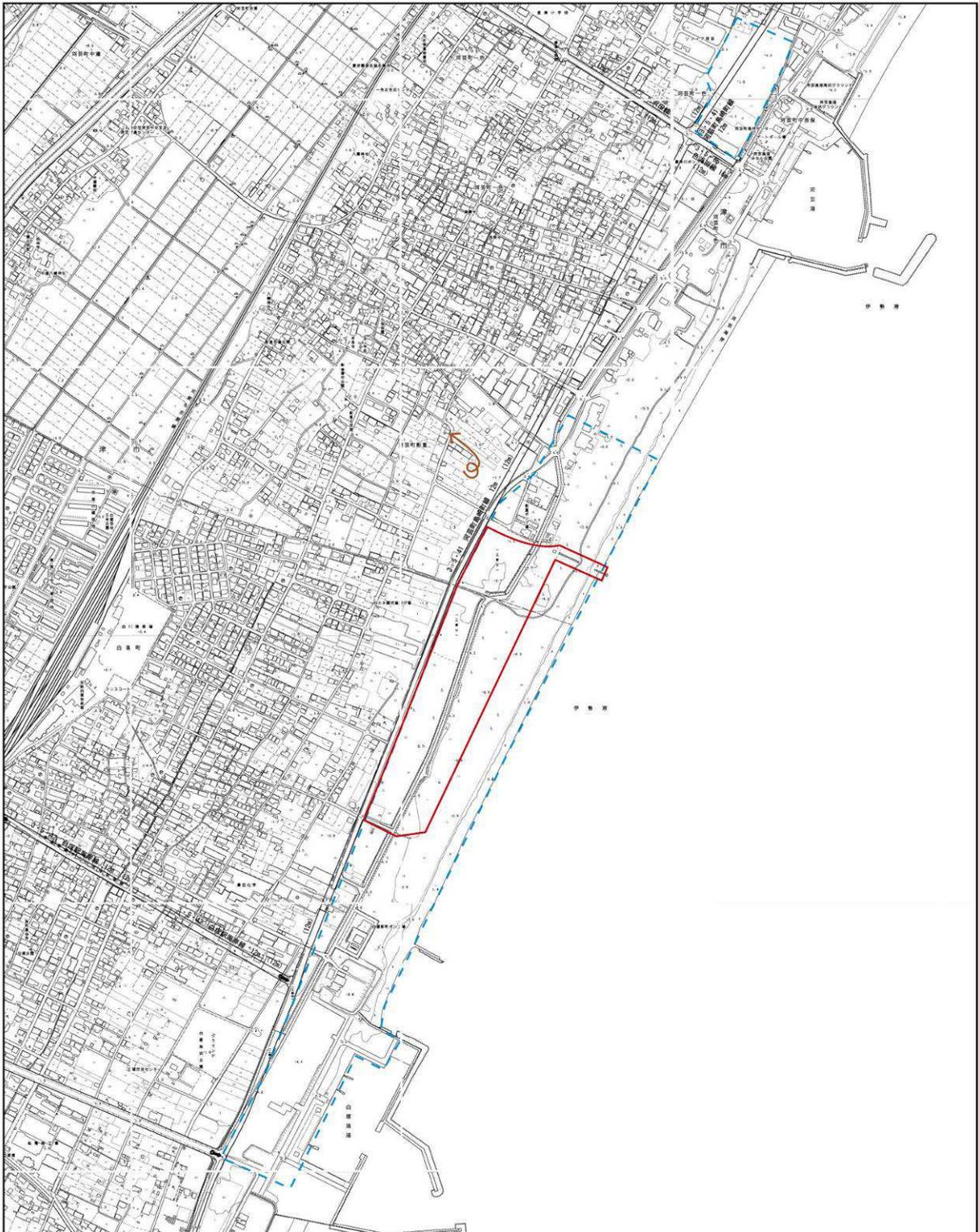


図 3.2-22 ミサゴの確認位置

【ハイタカ】

ハイタカの生態情報等を表 3. 2-27 に、確認位置を図 3. 2-23 に示す。

表 3. 2-27 特筆すべき種の生態および確認状況（ハイタカ）

ハイタカ	タカ科	種の 保存法	-	環境省 RL	NT	三重県 RDB	NT	近畿 RDB	R4 注目 (繁殖)
生態	国内では、本州中部以北で繁殖し、渡りの時期の春秋と冬期には全国でみられる。森林性で高木の樹上に営巣する。小鳥類がおもな餌である。 【出典：三重県レッドデータブック 2005 動物（三重県）】								
確認 状況	平成 25 年 4 月 25 日に海上を飛翔する 2 羽を確認した。								